書き込み年表 advanced⑫、 中国史 8(明後期～清王朝初期)　　(皇帝の年代は在位をあらわす)

明の時代の産業の変化、商工業の発展

江南　米の二期作の普及　品種改良の成果
商品作物の普及 綿花・生糸(絹)　桑の栽培広がる(かいこ(蚕)の食料)
長江下流デルタ地帯
宋代「蘇湖(江浙)熟すれば天下足る」　米作の一大産地
明代 米作中心から商品作物(綿花・養蚕・桑)へ

綿織物	上海、松江中心	絹織物	蘇州
木綿	南京中心	紬(つむぎ)	下級絹織物
陶磁器	景徳鎮中心	その他染付、赤絵など	

米の生産は内陸(長江中流域)へ　「湖広(湖北・湖南省)熟すれば天下足る」

工業の発展
綿織物・絹織物　農民の副業としての家内工業から
マニュファクチュア(工場制手工業)も見られる
→ 工業製品輸出 → 日本・ヨーロッパ・ロシア
銀の流入 ← アカプルコ貿易(スペイン)

流通の発展・交通の整備
客商の出現　物資を遠距離持ち運んで売買する商人
新安(徽州)商人　塩の専売で利益
山西商人　金融・運輸業を中心に活動

銀中心の経済へ
(中国では15世紀より、
その後16世紀価格革命
の影響を受ける)

会館・公所　商工業団体組織の施設、同業・同郷の業者が連帯

商人が地主に　城居地主　都市に居住する地主
郷紳(きょうしん)　官僚経験者で地元に帰郷した者
特権を活かし、税を免れる

宝鈔(紙幣)の価値下落
官僚たち銀での俸給の支払い要求
→ 租税や賦役(人頭税)
銀での代納広まる
→ 銀の農村への浸透
高利貸し・商人の搾取

在地地主の没落・農民の困窮　土地を手放す農民も
抗租運動　農民が地主に小作料(佃租)の引き下げ要求

(西欧、大航海時代)
コロンブス、西インド諸島
発見(1492)
コルテス、アステカ文明
滅ぼす(1521)
ピサロ、ペルー征服(1533)

ペルーのポトシ銀山発見
(1545)
ザビエル来日、布教(1549)
スペイン、マニラ建設(1571)

マテオ=リッチ, マカオに
来航(1582)

1550

衰退期

14代万暦帝(神宗, 1572～1620)

内閣大学士, 張居正の改革

宦官勢力の抑制、経費の節約
土地丈量　全国的検地
一条鞭法　田賦(地税)と丁税(人頭税, 労役含む)を一括し
銀でまとめて治める
→ 清の地丁銀制で人頭税は廃止

張居正死後, 万暦帝浪費に走る
万暦の三大征(秀吉の朝鮮出兵など), 女真族の南下

(中国東北部)
女真族のヌルハチ挙兵(1583)

(豊臣秀吉の朝鮮出兵)
文禄の役(1592), 慶長の役(1597)
朝鮮では壬辰・丁酉の倭乱と呼ぶ
ヌルハチ女真を統一(1598)

1600

東林派の批判
鉱山開発や増税で民衆困窮　顧憲成、東林書院にて政府批判

非東林派 → 対立
東林派から批判された官僚が宦官と結託
魏忠賢(宦官)
東林派弾圧

民変　困窮した民衆の反乱

17代崇禎帝(毅宗, 1627～1644)
魏忠賢を排除　魏忠賢、崇禎帝の治世にて失脚
徐光啓らを用い財政再建 → 徐光啓、マテオ=リッチと交流

更なる増税 ← 軍事費捻出 → 女真族に対抗
民変(反乱)深刻化
李自成　農民反乱のリーダー
→ 北京陥落、崇禎帝自殺(1644)

モンゴル人、
漢人投降 → 蒙古八旗、漢軍八旗をさらに編成

アイシン(後金)国(1616～1636)
ヌルハチ(1616～1626)
八旗を編成　軍事・行政組織
満州文字を制定　モンゴル文字にならう

サルフの戦い(1619)　10万の明軍を破る
瀋陽(盛京)に遷都(1625)
ホンタイジ(太宗, 1626～1643)
チャハル部(内モンゴル)を平定(1635)
清(1636～1912)　国号を清とする
六部(行政機関), 都察院を置く
理藩院設置　藩部(周辺の所領)の統括
順治帝(世祖, 1643～1661)
明滅亡(1644)

マテオ=リッチ(イエズス会宣教師)の布教と西洋文化の紹介
万暦帝と謁見(1601)　自鳴鐘(時計)を献上
徐光啓、洗礼を受ける(1603)　西洋の科学技術の紹介(徐光啓の協力のもと)

「幾何原本」	エウクレイデス(ユークリッド)の幾何学	「農政全書」	農政・農業技術(徐光啓の撰, 60巻)
「坤輿万国全図」	中国最初の世界地図、李之藻の協力	「崇禎暦書」	西洋暦法による暦法書
			(アダム=シャールの協力)